

(様式6-1)

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	鹿児島県内に残存する大正・昭和初期橋梁の意匠調査
助成事業者	第一工業大学工学部
代表者	羽野 暁

(目的)

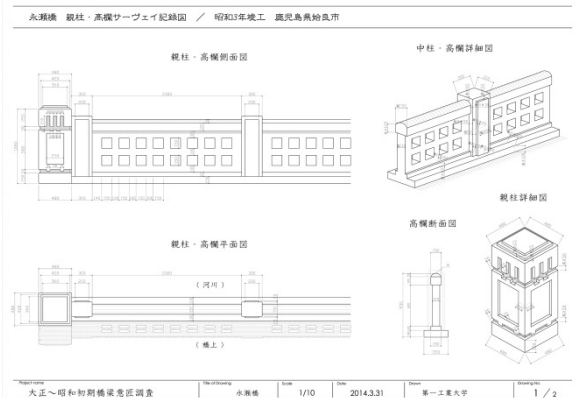
本研究は、我が国に残る大正～昭和初期に建設された鉄筋コンクリート橋の悉皆調査を実施し、橋梁親柱・高欄の意匠記録資料を作成することを目的としています。

(概要)

近年、土木事業と地域の風景形成が密接に結びついていることが、社会的に認識されています。風景をつくる土木事業に対する市民の関心の高まりを受け、住民参加等により地域の土木事業に住民の声を反映する機会が増えています。戦災復興から高度成長期にかけての一律的な社会資本整備へのアンチテーゼからも「地域らしい風景の保全・創出」が求められており、古い石積み護岸や煉瓦橋梁、石橋など歴史的な土木構造物を保存することで、地域の風景に歴史的な重なりを残し、均一化された風景から脱却する試みが各地で進められています。

我が国では、関東大震災の影響を受け、大正期～昭和初期に多くの鉄筋コンクリート橋が国内に建設されました。当時、頻繁に架け替えが必要であった木橋にかわり、鉄筋コンクリート橋は所謂「永久橋」として東京、横浜、大阪等中央の大都市のみならず、国内の各地域において多額の費用をかけて建設されました。これらの橋梁は、我が国の貴重な産業遺産であり、また、地域に残る古い橋梁は、地域活性化に資する大きな資産であると言えます。

本研究は、主に鹿児島県および福岡県に残存する大正～昭和初期に建設された鉄筋コンクリート橋親柱・高欄の意匠調査を実施したものです。具体的には、対象部位（親柱、燈柱、袖柱、中柱、高欄）の実地計測、写真撮影を実施し、記録写真集と計測結果をもとにした記録図面を作成したものです。本研究では、45橋の記録資料を得ることができました。本成果は、貴重な文化遺産の記録資料となるとともに、地域らしさの創出を目指す市民参加型事業等においても、事業推進の一助となるものと考えます。



記録図抜粋 永瀬橋 (昭和3年 始良市)